



東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

Alcuni consigli pratici per affrontare la prova di composizione

Leggere attentamente la traccia per capirne le indicazioni, e al momento di scrivere attenersi ad esse.

Per i livelli 'terzo' e 'pre-secondo':

- nel caso la traccia indirizzi chiaramente all'uso di un tempo preciso (per esempio quello passato) attenersi a tale indicazione. Non farlo (per esempio scrivere al presente anche se è richiesto chiaramente l'uso del passato) dimostra un'errata comprensione della traccia e sarà valutato negativamente.
- se la traccia richiede la **descrizione** di un'unica figura comprendente varie scene e più personaggi, si consiglia di individuare per prima cosa le diverse scene e di procedere quindi alla loro descrizione utilizzando frasi chiare ed efficaci.
- se la traccia richiede la **narrazione** di una storia sulla base di una serie di figure, si consiglia di raccontare la storia in modo coerente e consequenziale avvalendosi, dove necessario, dell'uso di connettivi finalizzati a chiarire i rapporti causali e temporali fra le singole frasi (per esempio: 'quindi', 'allora', 'poi', 'dopo', 'dopo che', 'quando', 'mentre', 'purtroppo', 'finalmente', 'alla fine' ...).
- evitare la reiterazione non necessaria dei pronomi personali soggetto all'inizio di ogni frase. È innaturale e appesantisce la composizione.

Per tutti i livelli:

- scrivere di cose che non hanno alcuna attinenza con la traccia fornita significa produrre una composizione **fuori tema**, e quindi non valutabile.
- si consiglia di controllare sempre attentamente le concordanze grammaticali (genere, numero, coerenza del soggetto, tempi verbali...), fondamentali nella lingua italiana.
- evitare l'uso di termini ed espressioni appartenenti ad altre lingue e non utilizzate da quella italiana. Nel caso non si sappia o non si ricordi il termine italiano corrispondente è preferibile sforzarsi di esprimere lo stesso concetto ricorrendo ad altre parole.

Un ultimo consiglio per tutti:

- per quanto il tempo a disposizione possa talvolta apparire limitato, prima di iniziare a scrivere è sempre opportuno riflettere su 'cosa si vuole scrivere' e su 'cosa si è in grado di scrivere'. Scrivere organizzando in anticipo le idee favorisce la realizzazione di un testo coerente e coeso, aspetto di cui si tiene conto nella valutazione della prova di composizione.

作文テストに取り組む際に実践すべきいくつかのこと

注意深く課題を読んで、指示を理解し、それらに沿って書くこと。

3級・準2級について

- 課題で、特定の時制(例:過去形)を使うことが明らかに示されている場合は、その指示に従うこと。そうしない場合(例えば、明らかに過去形の使用が要求されているのに現在形で書いた場合)、課題の理解が間違っていることになり、悪い評価になる。
- 課題が、さまざまな場面と複数の人物から成る一枚の絵の描写を要求している場合、まず最初に場面をいくつかに分けてから、明確な文を使ってそれらを描写するのがよい。
- 課題が、いくつかの絵で出来たストーリーを物語ることを要求している場合、首尾一貫するように話を書くこと。必要な箇所では、因果的・時間的な関係をはっきりさせるための接続詞を使うとよい。(例: quindi, allora, poi, dopo, dopo che, quando, mentre, purtroppo, finalmente, alla fine など)
- 各文頭で主語人称代名詞を不必要に繰り返すのは避けること。不自然であり、作文が重くなる。

すべての級について

- 示された課題と関係のないことを書いた場合、主題がずれている作文と判断され、評価できない。
- 常に文法的な一致(性、数、主語との一致、動詞の時制など)に注意を払い、チェックすること。これはイタリア語の基本である。
- イタリア語では使われていない、他の言語の単語や表現の使用は避けること。ある言葉を知らない、または思い出せない場合は、同じ意味のことを他の語句で説明する努力をする方がよい。

すべての人への最後の助言

使える時間は限られているとしても、書く前にまず、「何を自分は書きたいのか」、「何を書くことができるのか」を考えるとよい。前もってアイデアを組み立ててから書けば、文章が首尾一貫したものとなり、作文テストでよりよい評価を得ることにつながる。

検定ニュース

◇2013年秋季第37回試験志願者数報告

(受験者数/志願者数)

	1級	2級	準2級	3級	4級	5級	合計
札幌	3/4	9/9	7/7	6/8	12/14	8/11	45/53
仙台	0	4/4	4/4	6/7	9/10	9/9	32/34
東京	42/46	106/114	109/122	167/214	199/228	130/158	753/882
横浜	3/3	18/21	22/24	49/54	60/64	36/39	188/205
金沢	1/1	3/3	1/1	1/2	3/5	5/6	14/18
名古屋	4/4	17/19	15/16	14/22	26/37	26/35	102/133
京都	3/3	15/16	26/27	42/50	27/28	23/26	136/150
大阪	11/12	28/29	38/43	56/63	68/76	69/78	270/301
岡山	1/1	2/2	6/6	9/11	6/8	6/9	30/37
広島	1/1	1/2	1/1	8/8	7/8	5/7	23/27
福岡	1/1	4/4	8/11	14/20	29/37	21/24	77/97
宮崎	0	0	0	1/1	2/2	1/1	4/4
那覇	0	1/1	1/1	1/1	0	1/2	4/5
ローマ	9/9	9/9	4/4	10/10	1/1	1/1	34/34
ミラノ	7/8	12/12	1/1	11/12	10/10	1/1	42/44
計	86/93	229/246	243/268	395/483	459/528	342/407	1754/2025

《マークシートのマークの仕方》

塗りつぶしても、○枠をはっきりなぞるだけでもOKです。

正しいマーク記入例:



第37回検定でのアンケートから

御礼 アンケート回収は、受験者数の約80%(1,383枚)でした。皆さまのご協力ありがとうございました！！

当協会のホームページ(以下 HP)には、検定の情報以外に、イタリア関係多方面へのリンクを充実させておりますので、検定前後だけでなく是非時々ご訪問いただくと幸いです。(よく訪問して下さる方は、10%でした。)アンケートで寄せられた質問への回答も多々発見があるはず。どうぞ検定協会HPにどんどんご訪問くださいますよう、よろしくお願い致します。

【試験や会場について】

マークシートについて…「全級共通なので、終わりが分かりづらい。」⇒各会場で、「何番までをつかってください。」とアナウンスするようにいたします。**机について**…「受験者人数が少ないときは、一人一卓に。」⇒そうですね。監督者に徹底いたします。「机ががたつき、消しゴム使用時に机がゆれた。」「机に穴があいていた。」「机の脚のコロがロックされていなかったので動いた。」「隣や前後の間隔が狭い。」⇒机の数に余裕がある場合は取り替えておくなどの、事前チェックをしっかりと徹底するようにいたします。**フィードバック** ⇒「静かな場所よかった。」「よい環境だった。」「音質がよくなった。」「広くて快適だった。」「監督官の対応が改善された。」などのフィードバックもあり、対応できたことに安堵するとともに、これからもよりよい環境で受験していただけるよう努力してまいります。今後ともアドバイスを賜りますよう、宜しくお願いいたします。

【ご要望の多かったご意見】

試験回数増・1,2級も年二回の実施を ⇒実施回数を増やすことや受験料の引き下は現在の収支では対応しかねる状況です。せめてもの措置として、来年から消費税がアップしても検定料は据え置き予定です。**作文例や書き方** ⇒今回の記事に作文についてのアドバイスを掲載しました。また過去問でのサンプルをHPに掲載するように準備いたします。**合格基準点**は結果通知書に記載されています。**⑥教室に時計** ⇒貸会場ですのでごめんなさい。**級別問題集** ⇒何とか出版できる方向で検討中です。**参考書・練習問題集** ⇒全国の主要書店他、HPの出版物のご案内からもご購入いただけます。また現在、ウェブやスマホ・タブレット端末で過去問を試していただけるアプリ(有料)を検討中です。**併願割引希望** ⇒検討中です。**会場増** ⇒四国での再開を検討しています。**結果通知が遅い** ⇒封書での通知を早めることは作業スケジュール上困難です。発送の1週間位前には、HP上で受験番号による合格発表を掲載しております。**リスニング対策** ⇒イタリアで出版されているイタリア語テキストを利用されてはどうか。文流の洋書部で多数取り扱われています。(文流 Tel.03-3208-5445 平日 9:30-17:30 www.bunryu.co.jp/cont/western_book/index.html)

☆受験体験記 4・5級を受験して

イタリア語を始めて1年半、はじめて検定を受験しました。これまで復習というものをしなかつたので、弱点を認識するいい機会になりました。

試験対策には、三修社から出ている『イタリア語検定4・5級突破』を使いました。解説と問題のバランスがよくて、試験直前に効率的に勉強できました。問題集と似た出題もあり、1冊やっておいて大いに助かりました。

試験を受けてみて、リスニングの比重が高いのに驚きました。音を聞いて、正しいシチュエーションをイラストから選ばせるというのがいいなと思いました。余談ですが、上の級では、正しいパンツのイラストを選ぶ問題があったらしく、ネットで「さすがイタリア語」と話題になっていました。

読解では語彙数が足りないことを思い知らされた一方で、手応えもありました。勢い余って、3級の過去問題を持ち帰って解いてみたところ(会場で古い過去問題をワンコインで販売していた)、半年くらい先には手が届きそうな気がしました。学習の一区切りに受験した検定試験でしたが、新しい目標も見つかり、モチベーションを保つことができました。(K.I様)

< 2014年の試験日程 >

◆第38回[2014年春季]実用イタリア語検定
試験実施日: 2014年3月2日(日)

準2・3・4・5級の実施

申込受付期間: 2013.12.20~2014.1.19(日)

◆第39回[2014年秋季]実用イタリア語検定
一次試験実施日: 2014年10月5日(日)

1~5級の全級実施

*試験実施日は基本的に3月と10月の第一日曜日。

発行: 2013年11月11日

発行人: 特定非営利活動法人国際市民交流のための
イタリア語検定協会

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 8-18-4F

☎03-5428-5630 FAX.03-3463-4901

E-mail: info@iken.gr.jp